

# 北代縄文通信

## 北代縄文サマーフェスタを開催しました

‘4000年前の縄文時代へ誘う’と銘打った北代縄文サマーフェスタを8月18日（日）に開催しました。夏休みの恒例行事として定着し、地元の長岡地区をはじめとする約500名の市民が参加して、楽しいひと時を過ごしました。

### 縄文土器の野焼き



2週間以上乾燥させた土器を並べます



薪への火入れ



炎天下のなか、炎の管理は大変です



土器を動かして満遍なく火熱を当てます



仕上げの準備（オキの上に土器を置きます）



一気に焼き上げます



野焼きが終了しました



土器を冷まします



世界にひとつだけのオリジナルの縄文土器が完成しました！



## その他のイベント



遺跡の粘土でクレヨンを作りました



科学博物館学芸員による‘石器を科学する’



アペラッチャコによる野外コンサート～夏の思い出が深まりました！～



## 縄文土器は縄文人に夢のような幸せを実現しました

北代縄文広場ボランティアの会

中 林 茂 男

### 1. 旧石器時代の遊動生活

縄文土器について従来から述べられている資料などを読み、私の感じたことや思ったことを以下に述べてみたいと思います。

最近の研究によると、旧石器時代は今から1万5千年ほど前に終り、地球の温暖化に伴い氷河期が終了し、間もなく縄文時代を迎えたとされています。旧石器時代の人たちはゴリラやチンパンジーなどの類人猿と似たような遊動生活をしていました。ゴリラは每晚欠かさず寝るための巣を作りますが、昨夜の巣がすぐ近くにあっても見向きもせず、新たにその一夜のために巣作りをします。旧石器時代の人、この類人猿と同じように每晚場所を変え、野宿して食べ物を探しまわっていました。いわゆる遊動生活をしていたのです。

食料は主として獣や魚を食べて命をつないでいたのですが、しかし猿や猪などは逃げ足が早く、これを捕まえることは容易ではありませんし、また獣を追い詰めると反撃に遭い、大怪我をする危険もあったことでしょう。



### 2. 縄文土器は大量の食糧を生み出しました

縄文時代は縄文土器が作り始められた頃からと言われています。以前は今から1万2千年前とされていましたが、最近ではC<sup>14</sup>（放射性炭素年代測定法）を測定することで、1万5千年前からと言われるようになりました。

旧石器時代では土器によって煮炊きをするという発想は全くなく、想像することすらできなかったのではないのでしょうか。土器を作ろうとした場合でも、その完成までには様々な苦勞があったと思います。土器を作るのに適した粘土はどこにあるのか、土地の表面は雑草が生えていて分かりません。土器の作り方にも困難なことがあったことでしょう。これらの困難を克服して土器作りが完成するや、早速その土器でドングリや雑草を煮炊きして食べたことでしょう。従来とても食べられないと思いこんでいたドングリや雑草がなんと美味しいことかと、大変な驚きであったことでしょう。

通常、自然界で育った植物には、火を通さずに食べられるものは限られていますが、火熱を通して始めて食物となるものが多いのです。生のドングリは火を通すことにより、ドングリに含まれるベーターデンプンがアルファーデンプンに変化し、消化吸収され栄養となります。特にドングリや栗などは縄文人の主要な主食となり、また雑草の中にもウド、ワラビ、フキ、タラノメ、ヘチマなど土器で煮ることによりアクが抜け、軟らかくなり美味しくなる植物が

たくさん  
沢山あります。

旧石器時代までは、朝、目が覚めたら直ちに食物探しにとりかかり、一日中、はいずり回っていたことでしょうか、もうその必要はなくなりました。土器の利用による煮炊きの普及は、従来の食糧不足を一挙に解決することができたのでした。植物を煮炊きする道具としての土器の開発は、人類の食生活にとって歴史的な快挙であり、極めて大きな貢献を果たしたのです。

土器が開発され煮炊きにより多くの植物が食べられるようになり、食糧事情は大変豊になりました。ドングリや栗の実は秋になると短時間で大量に拾い集めることができます。そしてこれらの実は日に干しておけば長時間貯蔵することが出来ますので、毎日食糧探しに働かなくても安心して日々を送る余裕が出来てきたのです。

### 3.遊動生活から定住生活へ

たくわ  
貯えた豊富な食糧により安心して命をつなぐことが出来るようになり、たので、定住も可能となってきました。石で囲って炉を作り、土器で煮炊きをしてみたり、ドングリや栗が何所へ行けば手に入るか、雑草の中でどんな草が美味しいか、近くの森や野原を回って調べたのではないのでしょうか。こうした日々が多くなるに伴い、一定の場所で定住することは大変便利であることを実感したに違いありません。

また生活に便利な道具も次第に増加し、特に壊れ易い土器は用途別に大変多くなったと思われますので、とても多量の道具をもって他所へ移動することは困難になってきました。定住にはどんな場所がよいかも、次第に分かってきました。秋になると沢山のドングリや栗などの実が収穫できる所で、また水が近くで得られる場所を選んで住居を造り、定住生活を始めました。

住居は雨をしのぎ、夫婦が子供と一緒に寝起きできる広さで、かなり長期間使用できることが必要で、それがやがて竪穴住居として実現しました。竪穴住居が何棟か並び建つようになり、村づくりが始まるとともに、村で必要な施設も次々と設けられました。食糧貯蔵の倉庫、ゴミ捨て場、共同作業場、共同墓地、お祭などに必要な広場など、これらは村人全員が力合わせて造ったと思います。

村の広場では犬がかけめぐり、子どもたちのはしゃぐ声、大人たちの談笑、鳥の鳴き声、幸せ一杯の村が見えるではありませんか。「縄文土器は縄文人に夢のような幸せを実現した」と私は思いました。

串田新式土器（北代遺跡）



北代縄文広場ホームページ

<http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/index.htm>